

会 議 録

会 議 の 名 称	第 2 回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会
開 催 日 時	令和 4 年 4 月 8 日 (金) (午前・午後) 1 時 00 分 開会 (午前・午後) 4 時 10 分 閉会
開 催 場 所	茨木市役所 南館 8 階中会議室
議 長	山本 博史 氏 (追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授)
出 席 者	【評価委員】 山本博史氏 (学識経験者)、藤原直樹氏 (学識経験者)、河合将生氏 (NPO 関係者)、高田和子氏 (地域活動関係者)、板倉幸司氏 (公募市民) (5 人) 【事務局】 高崎市民協働推進課長、山本市民協働推進課市民活動係長、 松井市民協働推進課職員 (3 人) 【担当課】 子育て支援課、文化振興課 (2 課)
開 催 形 態	原則公開 (傍聴者 1 人)
議 題 (案 件)	(1) 概要説明および会議の公開・非公開の決定 (2) 提案者によるプレゼンテーション及び質疑応答
配 布 資 料	・ 第 2 回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会次第 ・ 令和 4 年度 チャレンジいばらき補助金申請事業一覧 ・ 応募関係書類 (個人情報を含むため省略)

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	開会及びあいさつ
山本委員長	公開・非公開の決定について（原則公開・会議録は要点筆記） 本日の会議の概要説明 傍聴者入室許可（傍聴者入室） ----- プレゼンテーション開始 -----
団体	【自由テーマ型】 移動式はいはい♡あんよルーム 子育てアラサークルたまふら
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】
山本委員長	・ 旅費交通費について、講師は複数人いると理解してよいか。 → 回ごとに参加する講師も人数も異なるが、複数いる想定。
河合委員	・ 旅費交通費については、外部講師分のみか。 → パパママチャレンジ企画で参加したパパママの交通費も含んでいる。 ・ 他サークルと比較した強みや特長は。 → 同じ子育て世代だからこそ共感できることがあると思うので、共感力は負けないと思っている。
板倉委員	・ 年間で何名に来てもらおうと考えているか。 → 目標は決めていないが、1組でも自分たちの活動を求めてもらえれば。
藤原副委員長	・ これから運営メンバーは増えていく見込みがあるのか。 → 固定のボランティアが7人いるが、足りないと感じている。4月中に1度ボランティア協会を通じて説明会を行う予定。
団体	【自由テーマ型】 子育て相談・楽しく遊ぼう！ 一般社団法人子育てサポート・えん
関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】
河合委員	・ 1回あたりの相談時間は。 → 事前アンケートを基に、ポイントを絞って15分程度。気軽に相談できるようにしている。
藤原副委員長	・ 補助金が得られない場合の資金運営は。

山本委員長	→子育て支援総合センターの委託事業やバザー、持続化支援金等で運営資金を得て、やりくりする。イオンの黄色いレシートキャンペーンにも参加中。 ・実行力が高いと思っているので、自立に向けての準備を進めていただければ。
団体	【自由テーマ型】 そんなとき、ホッとアート（病院や福祉施設でのアート展示） ハティムハティク
関連課	【関連課 意見】
藤原副委員長	【質疑応答】 ・茨木市内での実現可能性は。 →児童養護施設、障害者の養育施設で、3～4施設で検討中。
高田委員	・アーティストだけでなく、子どもたちの絵を飾る等も行ってはどうか。 →設置しようとしている施設から同様の話があり、検討中。
板倉委員	・コロナのため、なかなか計画通りにいかない団体もある。メンバーとも確認しながら、いつまでに何をする等スケジュール管理をしっかりと行っていただければ。 →7月には作品を搬入できればと考えている。
河合委員	・茨木市の補助金を出す必要があるか疑問。施設に設置するのであれば、その施設に費用を払ってもらふべきだと考えている。施設側の費用負担についての話は今まであったか？ →アートを飾るかどうかは病院の意向によるところが大きく、費用が発生すると大抵断られる。補助金を使い、無料提供からスタートすることで、企画内容への理解につなげたい。
河合委員	・市民参加の機会を作ると、公益性に資する、地域に開かれた施設になると思う。 →大学等に声を掛けている。作品が飾られた様子を学生が見学することで、若者の福祉施設へのイメージアップにつながるのではと考えている。
団体	【自由テーマ型】 異文化交流事業 AHR 協同組合
関連課	【関連課 意見】
板倉委員	【質疑応答】 ・現在行っているオンライン講座の頻度は。 →オンライン講座が週に2回、Facebook による配信事業が週に1回程度。 ・雨天時の対応について →テントを使用するか近隣施設を利用するか、今後検討予定。
山本委員長	・対象人数は日本人25人、外国人25人とのことだが、茨木市の在住外国人は、令和2年の国勢調査で3216人。もう少し対象人数を増やせるとよいと思うが。

河合委員	→規模は大きくできるよう再検討する。 ・外国人にはどのように声をかけていく予定か。 →市役所を通してチラシを公共施設等に設置したい。外国人に関しては関連企業への周知が可能。 ・普段つながりがある関連企業以外への外国人への周知は。 →Facebook のフォロワーに直接アプローチしたいと考えている。 ・誰のための事業か。AHR 協同組合と関連のある技能実習生として来た外国籍の方が対象なのか。 →日本人なら、外国人との交流に関心がある人。外国人なら、職場以外のつながりを求めている人。 ・「文化の持ち寄り」は外国人が求めていることなのか。企画はだれが考えたのか。 →社内で、日本人である自分たちが技能実習生を受け入れる事業を行なっている中で、出てきた案。同じニーズは外部の方にもあるのではと考え、企画した。
団体	【自由テーマ型】 Ibaraki Music Village 茨木音楽村 実行委員会
関連課	【関連課 意見】
山本委員長	【質疑応答】 ・段ボールでカホンを作るワークショップは何個を見込んでいるのか。 →20 個くらいと見込んでいるが、スタッフの数にもよるかと思う。
藤原副委員長	・例年の演奏者と参加者の数は。 →茨木フェスティバルの 1 区画を使っていたので、かなりの人数が出入りしていた。13 団体ほど。
河合委員	・市民参加が特徴だと思うが、市民の参加に向けた仕掛けは。 →IBALAB@広場でのイベント(こどいち等)に来る団体やインスタグラム等でアプローチできれば。広場への看板掲示、子ども食堂への周知も検討している。 ・次年度以降も検討しているか。 →検討している。プレイヤーの固定化を感じている。もっとフラットに関われる場をつくっていきたい。 ・音楽に触れられる場としてこのイベントがあると知ってもらうために、普段の活動を認知してもらう必要があるのでは。 →茨木市のイベント発信をするアカウントを作ったので、広めていきたい。
団体	【自由テーマ型】 パパ・ママ・わたし・ぼく みんなまる◎フェス co-クリエーションデザイン smile infeel
関連課	【関連課 意見】

山本委員長	【質疑応答】 ・ 出店者の規模感はどれくらいか。 →ワークショップ 10 ブース、飲食、物販 5 ブースほどで、17 ブースを予定しているほかステージ出演者として 15 人決まっている。カホンづくりに関わるスタッフが 3 人ほど。
藤原副委員長	・ 収入の自己資金欄にある懸賞金とはなにか →茨木ローズライオンズクラブで公益的な活動している団体に贈られる「ふるさとの灯り」に入選し、10 万円を得たため、足りない分はそこから使おうと考えている。
板倉委員	・ 補助金が得られなかった場合、どうするか →音響規模を縮小しようと考えている
河合委員	・ 摂津市の団体と協働で行うということは、実際に事業全体でかかる金額は収支予算書で上げられる金額の倍ほどという認識で良いか。 →その通りである。摂津市の団体は、積水ハウスが補助してくれるとのこと。
団体	・ smile infeel としては、「場づくり」が役割という認識で良いか。 →場づくりだけが役割ではない。当団体は様々なスキルを持った人が集まっているので、団体のメンバー、他の市民団体どちらもワークショップやステージなどの出店をする予定。
関連課	【自由テーマ型】 音楽で街を元気に！ホールコンサート Neighbors
山本委員長	【関連課 意見】 【質疑応答】 ・ 昨年と比べて異なるところは。 →配信に力を入れる。前年は個々の演者がそれぞれアーカイブを出していたので、今回初めて「音楽で街を元気に」の活動としての YouTube 配信を計画している。
板倉委員	・ お金のやりくりについて →厳しいが、参加者が当団体だけではないため、各演者の持ち出しがないようにできればと考えている。
河合委員	・ 動画はどれくらいの再生数か。 →昨年度実施時、若い世代の団体は 100 以上の閲覧があった。 ・ 動画視聴者を増やすための広報の工夫は。 →事前に SNS 等で広報しようと思う。 ・ 持続性を考えるのであれば、寄付を募るのも良いと思う。
団体	【自由テーマ型事業】 第 3 回新春初笑い茨木素人落語リモート寄席（有観客） にぎわい亭一門

関連課	【関連課 意見】 【質疑応答】
山本委員長	・サポートしてもらう学生を現在1人で計画しているとのことだが、負担が大きくなるため、もう少しサポート人数も増やしてもらえればと思う。
河合委員	・コマーシャルの作成について、もう少し金額がかかりそうだが。 →自力で作成予定のため、支出はほとんど見込んでいない。
板倉委員	・観客の定員が15人なのは、スペースの都合上か。 →そのとおりである。本来30人ほど入れるが、配信機材の設置やコロナ対策を考え、15人を定員とした。
団体	【自由テーマ型事業】 元気、笑顔 わけあいフェスタ ひみこクラブ 【担当課 意見】 【質疑応答】
板倉委員	・出演者・参加者の人数はどれくらいを見込んでいるか。 →100人ほど。 ・演芸大会と免疫の関係性は。 →外に出て来てもらうための場づくりを狙いとしている。
藤原委員	・団体紹介資料として出している「免疫力を高めるための学びの会」はひみこ株式会社となっているが、実態はどうなっているのか。 →一緒に捉えられかねないかもしれないが、今回のイベントは、ひみこ株式会社ではなくひみこクラブという団体としての活動である。
河合委員	・ひみこの名前の由来は。 →邪馬台国の卑弥呼からとっていると聞いている。 ・「コロナと免疫力についての講座」と「発表会」は、本来分けたイベントとして行うのが一般的かと思うが、あえて同時に行う理由は。 →シニアプラザの事業を参考にしている。講座に参加してもらうことで集客につなげようと考えている。
高田委員	・対象は高齢者向け。11時～17時までは時間が長くないか？入退場は自由か？ →入退場は自由にする予定。
山本委員長	・講演会では、大豆丸ごと豆乳の話や、ひみこ株式会社の商品の宣伝があるのか？ →免疫についてはさまざまな話をするが、免疫を高める手段の中で、大豆の効果、また、大豆を丸ごと使用して作った豆乳は世界で初めてという話はしたいと考えている。 ・イベントの中で使用する「水素とオゾンの混合をミスト発生させる」機械について、厚生労働省のホームページには、除菌効果を謳う液体を空間噴霧することは呼

	吸器系に影響を及ぼす可能性があるため基本的には推奨しない旨書かれているが、本当に使用するのか。 →使用の有無について、再度検討する。 【自由テーマ型事業】 市民参加型ダンス公演「みんなでダンス in Ibaraki」の実現に向けた市民参加型ワークショップ事業 「みんなでダンス in Ibaraki」実行委員会 【担当課 意見】 【質疑応答】
山本委員長	・昨年度と比べて改善したことや、新たな取り組みは考えているか。 →参加者の声を聞いて活かしていくということができればと考えている。 ・参加人数 →20人で考えている。重度の障害の方が参加しやすい体制の検討については課題である。
河合委員	・「記録を取っておく」ということは次回以降に向けて重要かと思う。どう取ろうとしているのか。 →前回、映像としては残しているが、そこからの分析等はできていないので、方法については今後考えていきたい。 【スポーツ推進事業】 スポーツ推進事業で申請のあった茨木市陸上競技協会については、都合によりプレゼン担当者の参加ができなくなり、辞退の旨連絡があった旨説明。
山本委員長	他に意見はないか。以上でプレゼンテーションを終了する。 傍聴者退出
事務局	事務局から連絡事項はないか。
山本委員長	次回は、4月11日、午後1時から、ローズWAM501・502号室で開催予定。 以上で、第2回茨木市提案公募型公益活動支援事業評価委員会は閉会とする。